

— 歴史と想いが繋ぐ — みなとまち



小名浜まちづくり市民会議
会長 小沼 郁互さん

小名浜港の魅力は、港を中心に人々が集い、交流する場として発展してきたことだと感じています。その成果として、東北地区最初の「みなとオアシス」
として登録されています。

小名浜港がここまで発展したのは、先人たちが将来像を思い描き、時代の波を捉えながら少しずつ構想を形にしてきた積み重ねの歴史のおかげです。

まちづくりの参加方法はさまざま。これまでの想いを受け継ぎながら、若い世代の皆さんには、自分なりの考えを持ち、賑わいづくりに参加してほしいと思います。



▲みなとオアシスの詳細はこちら

■小名浜港の70年の歩み

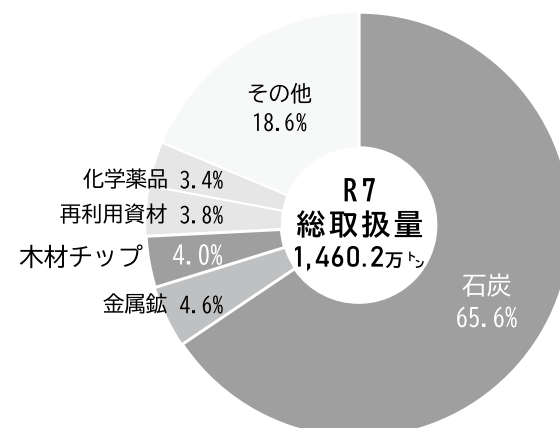


特集1 小名浜港 70周年

海と生きるまち、 港を支える人



小名浜港取扱貨物内訳 (出典：小名浜港統計年報)



石炭や木材チップなど、発電所の燃料となる貨物が約7割を占める

発展を続ける小名浜港

ショッピングに水族館、そして花火大会といったイベント。小名浜港周辺は「遊ぶ・学ぶ・集まる」場所として、県内有数の観光スポットとなっています。

休日を中心に多くの人で賑わうこの場所の少し先には、国内外から多種多様な貨物を積んだ船が行き交い、専門技術を持つ人やクレーンなどの荷役機械が忙しく動く、物流拠点としての小名浜港があります。

古くは磐城各藩の納付米の積出港として基礎が築かれ、明治以降は常磐炭鉱の石炭を輸送する基地として発展。現在は、年間約1,460万トンの貨物を取り扱っています。

3号ふ頭から小名浜マリナブリッジで結ばれた人工島の東港には、国内有数の規模を誇る水深18m（ビル6階分相当）の耐震強化岸壁が整備され、大型船舶にも対応する港として、東日本地域のエネルギー供給を支える重要な物流拠点となっています。

今年は、関税法による開港指定から70周年。暮らしや経済を支え、時代とともに発展を重ねてきた小名浜港。その歩みは、海とともに生き、港を支える人々そのものの歴史でもあります。

港を動かす人、港をつくる人

港を整備する建設業、貨物を運搬する港湾運送業、船を安全に港に案内する水先人やクレーンオペレーターなど、小名浜港はさまざまな仕事に携わる人々の力によって成り立っています。

70年の歩みの中で、先人たちが築き上げてきた小名浜港。普段は目にする機会が少ないその裏側には、それぞれの仕事に汗を流す人たちが生き生きと働いています。

時代が変わり、いくつもの波を越え、技術や機械が進化する中でも「港と物流を支える」という信念は変わることなく、新しい風を取り入れながら、これからも港は動き続けます。

「主な業務は船内に乗り込んでの荷役作業や陸上でのクレーン操作。貨物をいっぱいに積んだ大型船の積み下ろし作業を無事に終わられたとき、やりがいを感じる」と話す、小名浜海陸運送(株)の山下さん。



①港湾工事に使用する作業船での様子 ②防波堤上での作業
③コンテナを積み下ろすクレーン操縦席から ④コンテナの確認作業

地域を支える物流拠点

私たち港湾運送業は、貨物の積み下ろしから、保管・陸上輸送までを一貫して担っています。小名浜港では石炭を始めとしたエネルギー貨物やコンテナ貨物などを取り扱っており、暮らしや産業に欠かせない物資を円滑に運ぶエッセンシャルワーカーとして、地域を支えていることに誇りを感じています。日々多様な船が入港し、多くの人や企業が力を合わせて一つの物流を作り上げる。その現場に立ち会えることが、この仕事の魅力です。

この70年で、小名浜港は東北を代表する国際物流拠点へと発展してきました。貨物も多様化し、船も大型化しました。また、かつて人力が中心だった荷役作業も、現在では大型機械の登場により効率性・安全性ともに格段に向上しています。一方で「安全を最優先に、確実に貨物を届ける」という基本姿勢は変わりません。これからも「縁の下の力持ち」として小名浜港の未来を支え続けていきます。



小名浜海陸運送株式会社
代表取締役社長 大曲 一行さん

海と向き合い、港の未来を築く

私たちは、船が貨物を積み下ろしする岸壁の整備や、港内の波を穏やかにする防波堤の建設など、海に関わるさまざまな工事を担っています。一般の方が港湾工事を目にする機会はほぼありませんが、海に囲まれた日本では輸出入の99%以上を船に頼っており、港の安全と機能を守る私たちの仕事が、皆さんの生活にも直結しています。

波や風などにより施工条件が毎日異なる港湾工事ですが、私たちが整備した港の中で、たくさんの人や機械が忙しそうに働いている姿を見ると「港が生きている」と感じます。70年の中には東日本大震災のような試練もありましたが、復興を成し遂げ、現在の小名浜港へとつながっています。ありがたいことに、いわきには航海士などを育成する学校があり、海の仕事を目指す若者も多くいます。次世代の力を取り入れながら、これからも小名浜港の発展に貢献していきたいと思います。



福島県港湾空港建設協会
理事 小峰 良介さん